



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

第12回森林塾報告 テーマ「枝打ち」 『ぶり縄で子供に帰る』

Aコース十五回のうち「山造り」に直結する実践は今回の枝打ちが最終という事になりました。

ネパールから島崎先生のごとくに研修に来ていたランバプのように、道具をまったく使わず素手、素足で木に登るまねはわれわれにはとてもできません。せめて一本のロープとありあわせの二本の木の

棒だけで木に登り作業をする、そんな技「ぶり縄」に挑戦してみました。

まずはロープの端末にアイ（目のかた）に輪を作る、日本では蛇口・へびくちとい（う）を作らなくてはなりません。雨で下草刈りが半日しかできなかった時に、このアイスプライス（アイ加工）を少しやっていたので、どの班も

割りとは簡単にできたようです。特に川島班は三十分ほどでアイスプライスを終了し、アカマツの間伐が終わった背の低い広葉樹のみが残る林に入っていました。そんなところに適当な撞木（しゅもく・ぶり縄にさす棒）があるのかなと思っていたら持ち帰ったのがみんなおそろいのネジキの撞木。イントラ川島がかねてから目をつけていたというプロ並みの材料です。さて完成したぶり縄を使っ

て早速木登りの練習です。塾イントラの中では中村さんと並ぶ、ぶり縄名手、川島さんの



結構使えるワンタッチラダー



案全帯に体を預けてリラックス

模範演技。小屋横のサワラを十メートルほど上ったと思ったらそこで隣の木に移り、「おー」の感嘆の声を浴びました。さすがに「そこでムササビやって」のリクエストに応えるのは無理のようでしたが。

ぶり縄の上で片足で支えてバランスをとり、両手を自由に使えるようになるにはちょっと練習が必要かと思いましたが、

模範演技。小屋横のサワラを十メートルほど上ったと思ったらそこで隣の木に移り、「おー」の感嘆の声を浴びました。さすがに「そこでムササビやって」のリクエストに応えるのは無理のようでしたが、



熱心すぎて藤本さん肩をひねる



だんだんサマになってきた、奥本さんのぶり縄



小沢さんはまず下でじっくり結び方の練習



今の山仕事のノコギリにはアサリがないものが多い。

今回の内容

第12回 11月11日(土)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつのおと、各班に分かれてロープのアイスプライス。撞木を探し、ぶり縄

完成



じょんのび藤原のノコ目立て教室

クスした姿勢でないとい
一日の仕事はできない
よ」とは保科先生の弁

12時 昼食

1時 小屋の西側、池
上山林をお借りして、
まずは島崎先生の枝打
ちの目的の説明。枝打
ちの目的はいくつかあ
ります。まず、節のない
(少ない)角材、板を取
るために、芯持ちの柱
を取りたいヒノキやス



ナタは買ったらずう前にもまず研ぐ、とプロは言う

ギは直径が6〜7cmの
時に枝打ちをすれば無
節の三・五寸柱になる
可能性が高い。大径材
になった時も節の少な
い板が取れるし、死節
も少なくなる。
また、テーパーの少
ない材(かんまんとい
う)を作ることにも可
能になる。北山スギなど
は良い例です。同じ様
な目的で、目の詰まっ
た材も作れます。(東濃
ヒノキなど)

その他、林内の風通しを良
くしたり、下層植生を改
善したりなどの効果があ
ります。また、とくにスギ
林などでは木に残った枯
れ枝は森林火災を拡大さ
せやすいのでこの予防に
もなります

10時10分 山小屋裏でぶり
縄による木登り練習。や
はり高いところへ登るの
は気持ちが良いようで、
子供の頃に戻ったような
気分です

11時20分 ワンタッチラ
ダーと昇柱器の使い方の
説明。「木の上では安全帯
に体を預けて、新幹線に
乗った時のようにリラッ

1時30分 保科先生による
枝打ちのやり方の説明。
下手な枝打ちはおかえって

材の価値を落としかねな
い。(ボタン材など)何し
る丁寧に行うこと。幹に
は極力傷つけずに。

2時 班に分かれて枝打ち開
始。そろそろ日が翳り始
め寒かったですね。

3時 枝打ち終了、山小屋に
戻り、刃物の手入れ。ナタ
は両先生に、ノコはイン
トラ藤原に説明してもら
いました。

3時50分 終了、解散

参加者/池田さん、稲垣(久)
さん、太田さん、小沢さ
ん、片岡さん、坂田さん、
佐藤さん、塩田さん、鈴木
さん夫妻、田中さん、中村
さん、芳賀さん、松下さ
ん、皆川さん、森さん、小
川さん、奥田さん、奥本さ
ん、鈴木さん、藤村さん、
藤本さん、村谷さん、山口
(み)さん、大野さん、猫
宮さん、塚原さん

講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/川島、後藤、藤原
宮崎、前田、
早川



第13回森林塾報告 テーマ「復習」
『あとは山での実践あるのみ』

おかげさまで天候にも恵ま
れ、KOA森林塾十二年度も
順調に予定をこなし、山造り
の実践は前回の枝打ちでほぼ
終了しました。調整日が一回
あり、今回は今までの復習の
回と銘打って、台風のため首
都圏から参加できなくて再度
と要望のあった測量と、希望
者の多い伐倒とに分かれ実力
アップに努めていただきました。

二年目の方中心の伐倒チー
ム第四班はイントラ川島のも
とサブイントラ大野さんと浜
田(正)さんにお手伝いいた
だき、そこそこの大きさのヒ
ノキやカラマツ、アカマツを
ばたばたと倒していました。



受け口を正確につくれ、伐倒の成功は目前です、片岡さん

なかでも金子さんは浜田
(正)さんとのマンツーマン。
カラマツを何本かこなし、伐
倒の腕は確実に上達したよう
です。ただ、倒したあとの枝
払いや玉切りはチェーンソー
をかまれて四苦八苦。木の自
重がどちら向きにかかっている
かをよく考えることと、木
の動く向きを注視することが
肝心です。



倒した木の切り株で、伐倒のよし悪しの反省会



稲垣(久)さんコンパスを覗く



毎年、これが芳賀さんの仕事のひとつになります。



ちょっと矢が大きすぎるか森さん



午後一番、測量チームの何人かはウトウト。



男同士でアイを作る。岡田さんののみ込みは抜群。



今回の内容
第13回 11月18日(土)
今までの復習
 8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。測量と伐倒のやりたいほうに分かれる。



片岡さんの玉切りに保科先生のアドバイス



トビを使ってかかり木の処理をする森さん。

イントラ中村の測量班は河尻さん、稲垣(久)さん、皆川さん、梅木さんとサブイントラ浜田(久)さんのお手伝い。あとの方は伐倒チームになりました。初、中級は藤原班、宮崎班、後藤班と三班に分かれ、上級は川島班。先生方のあいさつと浜田(久)さんが『木の家三昧』の出版紹介

9時 各班に分かれて実践開始。測量は小屋裏の建石山林をお借りして、伐倒は小沢財産区有林をお借りして。
 測量中村班、寒いから早く現場を終えようと、わずか一時間で十二の測点を終了。山小屋に戻り製図に入る。
 伐倒チーム、宮崎班と後藤班は交代しながらの伐倒。藤原班は藤原、森、松下トリオと田中、塩田ペアに分かれそれぞれマイペースで木を倒す



二年生の多くはマイ・チェーンソーを持つ。



3kgのヨキを振り回すので、村谷さんの近くには近寄れない

12時 昼食
1時 午前中の続きプラス、サブイントラ大野さんのもとに薪割り希望者が数人集合。また前回欠席の岡田さんは早川担当でぶり縄つくりと木登り

2時30分頃 測量班も製図終了し、他の班もこの頃からチェーンソーメンテナンスにはいる。自分の、または自分で自由に使えるチェーンソーを持っている方はやはりこのあたりをしつかりと身につけておかないといけません。鳥



イントラ後藤の説明はとにかく丁寧

つ違いますので自分に
あった目立てやメンテナ
ンスを身に付けてもらえ
れば一番です。
3時50分 終了、解散

参加者/池田さん、稲垣(久)
さん、稲垣(裕)さん、梅
木さん、太田さん、岡田さ
ん、片岡さん夫妻、河尻さ
ん、塩田さん、鈴木さん夫
妻、田中さん、芳賀さん、
松下さん、皆川さん、森さ
ん、山口(亜)さん、横井
さん、奥本さん、金子さ
ん、藤村さん、本城さん、
村谷さん、大野さん、浜田
さん夫妻

講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/川島、後藤、中村、
藤原、宮崎、前田、早川
取材/鈴木さん、藤井さん
(成美堂出版発行・ゆっ
たり田舎)

次回以降の予定
第14回 12月2日(土)
炭焼き

ドラムカン炭窯で炭焼きを
します。借りられれば信州大
学の移動式炭化炉も併用。炭
出しは翌日の朝になりますの
で宿泊可の方は小屋にお泊り
ください。(雑魚寝になりま
すのでご了承ください。ある
方はシュラフを)

お昼は新そばを打ってみま
しょう。われと思う方、ぜひ
挑戦を。
夕方からは忘年会をやりま

しょう。鍋かな?そうそう忘
れないうちに、村谷さんより
多大な差し入れを頂いていま
す。(ほかの方への催促では
ありませんのであしからず)

第15回 2月24日(土)
きのこの菌打ち
しいたけ、なめこなどの原木
栽培に挑戦してみましよう。
この時期伊那谷は道路が凍結
しがちです。状況等事務局に
お訊ねください。

リレー通信

『五感』
齋藤 飛雄馬

私は東京の町田という所で
生まれ育ちました。子供の頃
まだ道路もカイハツ途中で東
京の中では「おいここ東京
か?」というくらい道路には
街灯もなく隔離され、川には
メダカがいてザリガニがいて
(サワガニもいたなあ)日が
暮れるまで泥んこになって遊
んでいました。
私の家は代々百姓を営んで
おりまして、今ではあまり畑
など残っていませんが、昔は

蚕もやっていたらしく子供の
頃無意識に遊んでいた場所が
年を追うごとに重くのしか
かってくる様になりました。
特に東京の方では百姓は三代
で潰れると言われているらし
く、土地柄百姓を営んでいて
も地方に比べ収穫量も少な
く、道なき道を進み畑にして
いるより、宅地にした方が良
いのでしょうか。ここ二十
年、山は削られ川は埋めら
れ、狸がいた山も今では住宅
地になってしまいました。私
が小学校の頃は狸が出ると授
業が中断するほどでした。

私の父は早くに父を亡くし
(私にとっては祖父、祖父は
大工として生きていたよう
です。畑は祖母が中心でやって
いました)百姓を営んでいて
も食べていけないと思つたの
でしょう、職人として生きる
道を選んだようです。また、
母方の実家も同じく山形で百
姓を営んでおりまして母の兄
には(私にとっては伯父)大
工として六十歳を超え、いま



だ現役で働いている方がおら
れます。私はそんな環境の
中、今まで生きてきました。
大学生の頃、私は周囲との
違い「隣の芝生は良く見え
る」事と「先祖が残してきた
ものを残せるだろうか」とい
う重い重圧に蝕まれ、時代と
言う渦の中に流されコンク
リートのある世界の中で生き
ているうちに土から離れ子供
の頃泥んこになって遊んでい
た土が「汚い」「さわれない」
と言つたおかしな自分に気付
き始めました。大学を卒業し
進路を決めるうえで、会社で
働くという事、コンクリート
で固められた世界の中で生き
ていく事に疑問を持つ様にな
り、また社会が「大学を卒業
したら就職」みたいな空気が
あつたので父の仕事を継いで
みよう、継ぐならコンクリー
トを扱う仕事より木を扱う仕
事につこうと思ひ大工を志し
ました。

このときはまだ私の中では
心も体も整理出来ていない状
態からの出発
でした。精神
錯乱の中、孤
独感を感じな
がら時には寝
込み、二年間
仕事をしてい
るある時、削
られた木の香
りが鼻の中に
入ってきました。

た。その時嗅いだ事も無い匂
いがとても気持ち良く、なん
とも言えない良い匂いで、そ
れから意識して木を嗅ぐ様
になり、仕事にもこだわりが出
てきました。
材料を見ると英語で書か
れ、気候も違うのに海外から
輸入されたであろう木、大学
では一応建築を専攻しており
ましたので(勉強といつても
自分に興味がある事しか勉強
してきませんが)海外のピラ
ミッドや神殿に代表される石
の文化と違い、寺や神社に代
表される木の文化である事、
その技術、父や伯父のやって
きた事が後世に伝わらない様
な仕事の在り方。もう爆発寸
前。

日本にはもつどこにも伝
わっていないのか職業安定所
にいったりして探しました。
私の考えている事が間違つて
いるのか不安にもなつていま
した。そんな時、テレビで森
林塾を知りました。「あつた、
伝わっていた」ちよつと遠回
りしたかもしれないが見つ
かりました。私が参加させて
頂いたのは昨年十一年度の秋
の部でしたがとても充実して
いた日々でした。百姓の家に
生まれ、道具の扱い方(特に
ナタ、鎌)も身に付けずなか
ばあきらめて育ってきました
が何とかなりそうです。
さて、現在の私ですが、森
林塾から帰ってきて社会から

一步身を引いて歩いていま
す。大工の道は結局高所に慣
れず(二階までなら何とか上
れますが今は三階建てとい
う家もあるため)断念しまし
た。父の仕事も社会的状況も
あり休業中、道具等いろいろ
ありますが考えるのをやめま
した。
アルバイトをしながらいま
で感じ取れなかった日々の変
化を楽しんでいます。時間と
言つのは結構ゆくりしてい
て、今年の夏などは虫達が
「いいかげん俺達を見てくれ
よ」とうるさく鳴いている様
でした。また散歩をするこ
土の匂い、草の匂い、風とか
湿度、鳥の鳴き声や飛んでい
るときの羽の音、花とか草の
色、うまく表現できません
が、新鮮に体の中に入つてき
ています。なんだ、私の生ま
れた所はこんなに楽しかった
んだと最近ようやく感じてい
ます。全く灯台下暗しとい
やつです。



私の先祖も私と同じ様に
色々な事を考え「なんだつて
よーこんな事やんなきゃいけ
ねえんだ」と言いながら土の

匂い、草の匂い、風とかを感じて生きてきたのだと思えます。今、同じ場所にいられることに感謝しています。畑作業(家庭菜園程度ですが)も手伝えるようになり、背中にエネルギーみたいなもの(最近では自然という言葉ではくれない様な気がしています。宇宙かな?)を感じて「ああ一人じゃないんだなあ」と思える様になりました。今では畑に顔もわからない先祖が腰を曲げながら作業をしている風景が、いないのに映って見えます。

日本は世界にひけをとらない文化を持った先住民族だと思っています。ネイティブ・ジャパニーズとでも言いましょうか。道が開かれ(当時は必然的だったかもしれません)色々な文化が入ってくる様になり、地に合った生き方が再度問われている様に思えます。色々な想いと相互理解。外から良いと見える事も内から見れば良くない事もあります。その土地の隠された魅力。新しく良い物、古くて良い物、新しくいらぬ物を、古くていらぬ物を嗅ぎわけて、これからも生きていきたいと思っています。また、島崎先生、保科先生のように伝えられる人間になりたいと思っている今日この頃です。

リレー通信

みんな使ってる?
大野 裕



今は東京の八王子に住んでいます。新潟県の長岡市という所で、夏は、知っている人もいると思います。大花火大会があり、三尺五寸(打ち上げると直径は九百メートル以上)はものすごい迫力です。そして冬は一旦降り始めると一週間ほど止まない雪がとにかくどんどん積もる。住宅地の細い道路などは除雪が間に合わず、玄関から道路までに雪を削って階段を作り、二階の高さまで積もった雪の上を一人が通

れるだけの幅を踏み固め、そこを通って学校に通ったものでした。最近ではめっきり降雪量が減り、そんなことはないようです。

当時経験した嘘のような本当の話として、電線を跨いだ事が思い出されます。皆さん想像できたでしょうか。そしてその雪との闘いが毎年繰り返されます。屋根の雪をおろす作業、除雪作業、これらが年に何回も、積もる度に行わなくてはならず、年寄りだけの家などはかなりの重労働です。私は雪も冬も大好きなので、全く苦におもわず、雪おろしも汗いっぱいかいて、終わった時には上半身裸になつた事もありました。その時にやっと感じる冷んやりとした空気がとても心地良かったのを思い出します。

このことを山仕事に置き換えれば、山が、木が好きだから作業が苦にならない、という所でしょうか。体力的に多少キツかるうが、それを上回る楽しさが自分を支配していて、夢中で作業を行ってしまつた。時間の経つのが早

いし、何よりも手を休めたときの空気がなんとも心地良い。こんな事を感じ

る林塾のBコースに参加させて頂いたからでしょうか。山での仕事が好きで、まず書物を読みあさり、豊富になつていく知識に早く実践を追い付かせたいし、何よりも自分にもできるのか、自分に向いているのかを確認したかったのです。

島崎先生を始め、スタッフの皆さんの教え方の上手いこと。良い意味で絶対手伝わってくれない。裏を返せば全て自分が一つのことをやり遂げる事ができ、自信にもなるし、達成感もある。さらに皆さんから次々と繰り出される技や知識の数々。必ずあのようになつてやるぞ、と決意は勇ましく、今は職探しをしています。

「あんな県の林務関係者と話しましたが、みんな口を揃えて、「仕事はきついよ、金は安いよ、金になる仕事は少ないよ」と言います。でも金にならない仕事はありすぎる位あるんだから、何とかしてその間に入り込んで真剣に山の再生ができないものでしょうか。」

皆さん、ここで学んだことをただの体験にしているだけでは宝の持ち腐れですよ。そうです、森林塾から宝を授かったのだからどんな場面でも、どんな機会でもいいから少しでも使いましょね。更に一

リレー通信

「専門は何?」
梅木智則



人でも仲間を増やしていければ必ず良い成果が出る筈です。みんな木は好きですよ。だつたら楽しく山仕事ができますよ。僕の雪おろしのよつに。

で、この場をお借りしまして「梅木の専門って何?」というまったくもって自分勝手な考察を展開してみたいと思えます。

現在私が生業として「東京の自然系スクール」とは、GEONOUS(ジオノス)という名の超弱小NPO(非営利団体)です。ジオノスという名の由来は、GEO(ジオ・地球)とNOUS(ヌース・ギリシャ語で智慧の意)を組み合わせた「地球の智慧」を意味する造語です。98年10月に設立し、99年4月より開講した「ネイチャー ワークス ジオノス」という1年を通して自然の仕事の理解しよう!というテーマのスクール運営を主な業務にしています。そこでの私の役割は、カリキュラムの作成・外部講師との折衝・フィールド実習の引率など、主にスクールの中身に関わることを担当しています。(99年度冬の講座では、森林塾でお馴染みの浜田久美子さんも講師をお願いし、日本の森の現状についてのお話を伺いました。)

そもそもネイチャーワークスジオノスという講座を立ち上げた最大の理由は「自然全体つながりや仕組みを分かりやすく伝えてくれる場所がない!」と思つたことが発端でした。



高校の山岳部に入部したのを皮切りに、上京してからは某専門学校で野生動物の保護管理をいい加減に学び、アウトドアの技術の習得を目的に、後先考えず50日間のコースに参加し、カヌーのインストラクターや動物飼育や環境を教える専門学校の実習担当教官などを行ってみて行き着いた先が「自然や環境について、自分は何も知らなかったんだ！」ということでした。そして「自然全体のつながりや仕組みを知りたい！」と心から思うようになりまし

た。しかし、そう思っただけで周りを見渡してみても、そのような大きなことを教えてくれるところはありません。自慢になります。これまで参加した自然・環境系の講座・セミナー・イベントなど数え上

ければきりがありません。そこでは確かに、森林伐採の現状や水質汚染の事実・環境ホルモンやダイオキシ

ンなどについて細かく知ることは出来ませんが、あくまでもひとつの事柄の理解に終始し、その

事柄が全体とどう繋がりに影響しているのかを知ることが出来ませんでした。そんなモヤモヤした気持ちを抱えていた時に出会ったのが、現在のジオノスの代表です。TBSのプロデューサーという肩書きを持つ代表と、お酒を飲みながらあくじやない、こじやないと話合っ

た末「そんなだったら、自分達で作っちゃおうよ！」という誠に単純な結論に行き着きました。大変不謹慎かもしれませんが、ネイチャーワークスジオノスという講座は、大量のビール消費の上に産み落とされたと言っても過言ではありません。

99年度のネイチャーワークスジオノスも、今年の三月に全ての講座を終了し、のべ50名もの方々に参加して頂きました。講座内容は、雑木林に

トト口を探す・川の源流を見る・干潟の観察・雲の分類・百万年前の木の化石を掘るなど座学を併用したちよっぴりアカデミックなものから、カヤック・シュノーケリング・テレマークスキー・フライフィッシングなどアウトドア的なものまで多岐に渡り、非常にゴージャスな(つかみ所がない)講座になりました。「果たしてこれが自然を理解する項目なのか？」という反省の毎日でしたが、参加者の方々の差し置いて一番楽しんでしまったのは何を隠そう私です。

まだまだ、自然全体のつながりや仕組みを知るには力不足ですが、現在は二千一年春からの新講座カリキュラムを無知無恵を絞って作成している最中です。さて、私の専門は何なのでしょう？

私は自然について専門的な勉強を行ってきた訳ではありません。カヌーのインストラクターも国家資格がある訳ではありません。スクール運営も去年はじめてばかりです。

どうも私には「専門」などといえる高尚なものは持ち合わせてはいないようです。ただ、将来的には「専門は？」との問いに対して「自然を分か



コラム

森が荒廃することは、川や海や空、しいては地球全体の荒廃につながるのだと思います。この講座を通して、これからの地球のキーワードである森についての理解を深められればと思っています。

先日知人の長野県職員から、県政への提案をまとめるのでと意見を求められたじよんのが、森林問題を語ったところ、もう少し詳しく聞きたいとのこと。その方は福祉の担当なので、直接的に森林に関する立場ではないし、いわゆるお役人体質がすぐに改まると思えないのですが、なにしろ以前は職員が意見を述べることすらタブーだったそうなので、ともあれ提案できるように

「たかすや鉾泉」
TEL 73-3558
FAX 73-9040

いろいろな器で食べたい方は是非お試しを。間違いない他のどこよりもリーズナブル！泊まるにも林の中の静かでのじんまりした環境です。詳細はじよんのびまで。「OLIVE三輪」

おわりに
11月12日(日)のKOA収穫祭に村谷さんにきていただき「縄文さんの正しい火お越し体験」のコーナーを担当してもらいました。気温が低かったのと風が少しあったために午前中はなかなか火がつかなくて苦労しているようでした。午後からは何とか着火し、面目を保った縄文さんでした。お疲れ様でした。早川担当の木工教室(手作りミニ椅子)もじよんのび藤原の力強い応援を得て大盛況。四角い板に穴をあけ、脚は丸ほぞをつけただけの簡単なものでしたが60脚分が、あつという間の売り切れでした。材料は先生の小屋横でラジキヤリーで出したアカマツの曲がり元玉を使わせてもらいました。おひとついかが？

投稿大歓迎。ご意見、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P. http://www.koanet.co.jp

